



年頭ご挨拶

(社)日本オーディオ協会 会長

校條 亮治

みなさま、新年おめでとうございます。穏やかに、新年を迎えられたこととお喜びを申し上げます。

昨年を振り返りますと、誠に殺伐とした一年でありました。政権が変わり、日米防衛問題が起こり、相変わらず短期に首相が代わり、尖閣諸島問題と北方四島問題が起こり、そして北朝鮮問題と、何かに呼応したような目まぐるしさでした。また、国内問題では口蹄疫問題、児童虐待問題、再び起きた無差別通り魔事件、12年連続の3万人を超える自殺者問題など心痛む問題の連続でした。

経済は新興国の成長によって、何とか輸出で一息ついている状況ですが、国内街角景気と国民感覚からすれば、恐らく経済指標とは大きくかけ離れているのが実感ではないでしょうか。

逆に中国や韓国などの台頭に羨望の目で見ざるを得ない国民感情が悲しい現実ではないでしょうか。やはり、国のシステムや有様が世界のスピードや考え方と大きくずれてきているか、国益の本音のぶつかり合いに対応できるだけの思考訓練が出来ていなかったといわざるを得ません。一方で「マイケル・サンデルの正義について」や「ドラッカー本」が注目を浴びたのも、この閉塞感に何とかしたいという機運が持ち上がった年でもありました。

さて、今年への展望ですが昨年も言いましたが、国も個人もアイデンティティーを再認識し、私たち自身が全てに対して「他責」にするのではなく「自責」の考えを持つ必要があります。故ケネディーの就任演説ではありませんが、国に何かを望むのではなく、私たちに何が出来るかという、自責の考えが必要ではないでしょうか。私は、この国に本質とか、

基本とか、本物とは、を考える文化が必要と思いません。

それには落ち着いて考える時間や環境、心の余裕が必要です。幸い日本オーディオ協会は、微力ながらそこに関与できる位置にあります。オーディオは文化です。オーディオ文化の活性化により、落ち着いた本物文化の定着を目指したいと考えます。

具体的なことを申し上げれば第一に、今年は一般社団法人への移行を行ないます。既に昨年の総会承認済みの新定款が内閣府にて審議承認になれば理事会確認の上、移行手続きに入ります。これにより新活動領域の検討と、それに伴う組織の見直しを進めます。

第二は、国内オーディオ市場は高級クラスを除き、昨年底を打った感じです。いよいよ、文化定着を見据え、決定済み事業計画の具現化を加速する考えです。特に各普及委員会活動の推進を行ないます。

第三は、今年は創立60周年がいよいよ視野に入ってきます。次代の日本オーディオ協会のあり方を展望しつつ、60周年に何をすべきかを検討開始します。

これらについては、既に今期初頭より手を打ってきました。新定款の起草提起、理事会など新組織のあり方、次代に不可欠な日本オーディオ協会の活動とは何か、新展示会のあり方など今期活動の中でも取り組んでいる事項もあります。これらを着実に推進しますが、会員の皆様の絶大なご支援なくては達成できません。是非とも今年も相変わらぬご支援とご指導をお願い申し上げますと共に、皆様にとって幸多き年であるようご祈念申し上げます。